

# 地銀協レポート

vol. 11

2023.12.13

report1.

障がいがある方に配慮した取り組み

report2.

地方銀行に所属するスポーツ選手



誰もが利用しやすい銀行 ―― 障がいのある方に配慮した取り組み・・・・・・・・・・ 2

国内外で活躍！地方銀行のスポーツチーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

協会ニュース・・ 13

- ― 「地方創生事例集」に記事を追加しました
- ― 「ポートフォリオ運営講座」を京都ラボで開催しました
- ― 2023年度の規制改革・行政改革要望を提出しました
- ― 2024年1月、NISA制度が新しくなります

統計グラフ・・ 15

地方銀行のNISA取扱状況



Cover photo — No.002

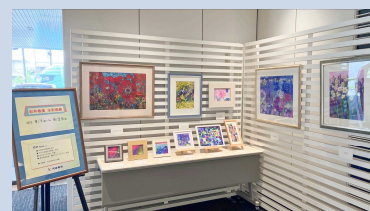
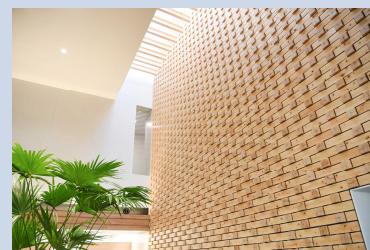
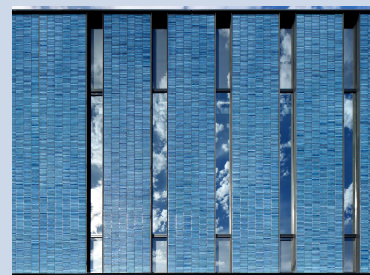
## 阿波銀行 福島支店

徳島市安宅二丁目6-67



壁一面のきれいな藍色が目を引く建物は、阿波銀行の福島支店です。阿波銀行が本店を置く徳島県は、古くから“藍”の一大産地で、藍染めが伝統工芸として発展してきました。この地で、1879年に、藍の取引で名をはせた大商人・久次米 兵次郎が久次米銀行を設立しました。その関西部を承継し、1892年に藍商人が出資しあい設立した合名会社阿波銀行を前身に、1896年、株式会社阿波商業銀行が誕生。後に現在の阿波銀行となります。同行は藍商人の精神を引き継ぎ、「堅実経営」を行是としています。

このように、古くから藍とのつながりがある同行は、藍色をコーポレートカラーに採用しており、銀行のロゴマークや、女性行員が着用する制服のリボン、スカーフなど、様々な場面に取り入れています。そして、2015年、“藍色一色”の福島支店が誕生しました。外壁は、縦と横の糸を編み込んだ織物を表現した特注タイルを使用しており、同じく徳島の伝統工芸・阿波しじら織が連想されます。支店内にはギャラリーもあり、1年を通じて美術展やワークショップなどのイベントを開催しています。



# 誰もが利用しやすい銀行

## —— 障がいのある方に配慮した取り組み

IT事務部 調査役 齊藤 亜由美

- 社会には、何かしらの障がいを抱え、日常生活に不便を感じている方が少なからずいらっしゃいます。
- 地方銀行は、障がいのある方にも安心・安全・便利にサービスを利用してもらえるよう、店舗設備やATMの工夫、行員の対応力向上など、様々な取り組みを行っています。
- 地方銀行各々は、誰もが利用しやすい銀行を目指して、引き続き障がいのある方に配慮した取り組みを推進していきます。

### はじめに

歩道の点字ブロック、鳥の鳴き声が流れる横断歩道、車いすマークのステッカー。街中には、障がいのある方が暮らしやすくなるよう、様々な工夫が施されています。

厚生労働省の調査によると、障がいのある方の概数は、身体障がい者436万人、知的障がい者109万4千人、精神障がい者614万8千人です。複数の障がいを併せ持つ方もいますが、単純合計すると、国民のおよそ9.2%が何等かの障がいを有していることとなります。障がいの内容や程度は人そ

れぞれであり、左記のように街中に工夫が施されているといっても、日常生活に不便を感じる方もいるのが実態です。

地方銀行は、障がいのある方にも安心・安全・便利にサービスを利用してもらえるよう、様々な取り組みを行っています。今回のレポートでは、そうした取り組みの一部をご紹介します。

### 使いやすい店舗・ATM ～大分銀行の取り組み～

障がいのある方の中には、自宅から銀行までの移動が大変だったり、ATMを操作しにくいといった悩みを持つ方がいます。

**大分銀行**は、共生社会の実現やユニバーサルデザインといった考え方のもと、障がいの有無、国籍、性別等にかかわらず利用しやすい店舗作りを進めています。

なかでも特徴的なのは、全国の銀行で初めて福祉施設内に設置された同行「太陽の家支店」です。別府市の福祉施設「太陽の家」理事長、故・中村 裕博士の「世界で一つしかない銀行をつくりましょう」という一言がきっかけで、1980年、同施設敷地内に開設されました。同支店は、開設当初から、障がいのある方も利用しやすいよう、「高さ」「広さ」「とびら」「トイレ」に配慮しています。例えば、全ての窓口が座って相談できるローカウンターであること、全ての扉が車いすでも利用しやすい引き戸であること、車いすのまま利用できる記帳台、筆談用のボード、広いトイレの設置など、お客さまがスムーズに入店し、手続



▲ 大分銀行 太陽の家支店のカウンター(上)、記帳台(下)。いずれも、車いすのまま利用できる高さに設定。また、記帳台は記入用紙が取りやすいよう、通常の位置よりも手前に設置するなど工夫されている。

きできるような様々な工夫をしてきました。当時は珍しかったバリアフリーですが、現在は銀行に限らず、多くの施設で取り入れられています。時代がやっと追いついてきたと言えるのかもしれませんが。

また、「太陽の家支店」は、車いすの重度障がい者を世界で初めて銀行窓口係として採用した支店でもあり、行員の事務スペース等も障がいのある方が利用しやすい設計になっています。

福祉施設の敷地内にある店舗であるため、「太陽の家支店」には、障がいのある方が多く来店されます。それぞれのお客さまの障がいの内容や程度に応じて、どのようなサポートが必要か（筆談対応が必要等）といった情報を行員同士で共有し、誰が窓口で対応しても、円滑に手続きができる体制を整えているということです。

さらに、大分銀行は、入社3年目の全行員を対象に、福祉施設「太陽の家」および「太陽の家支店」を視察する研修を実施しています。実際の体験を通じて、障がいのある方への接し方等を学んだ行員が、各支店に戻り、銀行全体として障がいのある方に配慮した対応に努めているということです。

また、同行は、視覚に障がいのある方が利用しやすい触覚記号方式のATMを全店舗に設置しています。触覚記号とは、触って識別できる立体的な「+」「◎」といった記号や数字であり、

ATMのタッチパネルの周辺に設置されています。視覚に障がいのある方も、この触覚記号と音声案内をもとに、行員のサポートがなくても一人でATM取引が完結できます。

同行は、今後も、店舗建て替えに合わせ、バリアフリー設備のさらなる拡充等に取り組むほか、研修の実施による行員の対応力向上等を通じて、誰もが利用しやすい店舗づくりを進めていくとしています。



▲ 大分銀行のATM。画面周辺に記号や数字が配置され（太枠部分）、画面右下にはイヤホンの差込口（点線枠部分）がある。

### 【障がいのある方が創作したアート作品の商業化】

大分銀行は、障がいのあるアーティストの方々の作品の周知や経済的価値の向上に向けた取り組みを行っています。

具体的には、同行の支店や宗麟館（同行の地域密着型金融を実現するフラッグシップビル）を活用した作品展の開催、同行が設立した地域商社「Oita Made」と連携した商品企画・販売等を行っています。

また、障がいのあるアーティストの作品を購入・活用したい企業等とアーティストをマッチングする取り組みも実施しています。実際、宗麟館を訪れた建設業者から、建設現場の囲いに絵を使わせてほしいと依頼があり、版權購入につながるなど、障がいのある方のビジネス機会の創出につながっています。本年11月に大分駅の広場で開催された小学生のスケートボード大会では、ポスターのロゴや参加者に配られるTシャツのデザインに、同行の行員の紹介により、障がいのある方の作品が採用され、注目を集めました。

さらに、同行が障がいのある方の作品を活用したことをきっかけに、当該アーティストの活躍の場が広がった事

例もあります。具体的には、2021年3月期のミニディスクロージャー誌に障がいのある方の作品を掲載したところ、杵築市職員の目にとまり、同市の観光関連ポスターや名刺等に当該アーティストを含め複数の障がいのある方のデザインが採用されました。大分銀行は、障がいのあるアーティストにしか表現できない作品を多くの人に知ってもらいたいと考えており、これからも障がいのある方の支援につなげられるよう、取り組みを広げていきたいとしています。



▲ 大分駅前で開催されたスケートボード大会で配られたTシャツ（左）と、大分銀行のミニディスクロージャー誌（右）。大分銀行提供。



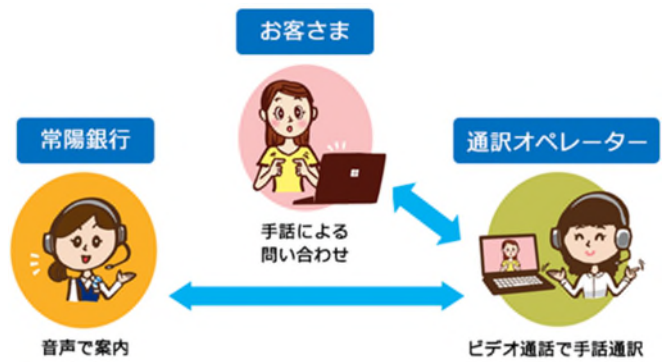
## 手話・筆談でお手続き ～常陽銀行の取り組み～

もし、どこかでキャッシュカードをなくしてしまったり、多くの方が銀行のコールセンターに連絡し、誰かに不正に利用されないよう手続きをするでしょう。ですが、音声が届かえづらかったり、話すことが難しい方にとって、コールセンターに連絡することは困難です。

茨城県に本店を置く**常陽銀行**は、こうした方が安心して利用できるよう、(株)ミライロと連携し、2020年に、「常陽銀行手話通訳リレーサービス」を開始しました。このサービスでは、キャッシュカード等を紛失した場合に、お客さまがビデオ通話を通じて、ミライロの通訳オペレーターと手話または筆談で話すことができます。専用アプリの導入や会員登録の必要がなく、Skype、Microsoft Teams、FaceTimeを使って連絡するだけで気軽に利用できます。通訳オペレーターがお客さまと同行の相談窓口担当者の間に入り、通訳することで、緊急時に迅速なサポートを行うことができる仕組みです。

同行は、「手話通訳リレーサービス」の導入により、聴

覚・発話に障がいのある方との緊急時の意思疎通が円滑になり、お客さまの利便性向上にもつなげたとしています。同行では、本サービスの対象手続きの拡充等も視野に、引き続き、障がいのある方の利便性向上に向けて取り組んでいくとしています。



▲ 常陽銀行ホームページ ([https://www.joyobank.co.jp/contact/shuwa\\_support.html](https://www.joyobank.co.jp/contact/shuwa_support.html)) より。

## 手のひらでお手続き ～伊予銀行の取り組み～

近年、銀行へ行かなくても、パソコンやスマートフォンから簡単に口座を開設できたり、残高を確認できるサービスが普及しています。こうした中、愛媛県に本店を置く**伊予銀行**は、お客さまの視点に立った「やさしいデジタル」の実現を掲げ、「どこからでもつながる」「手のひらでお手続きできる」サービスとして、スマートフォンアプリ「AGENT」を提供しています。

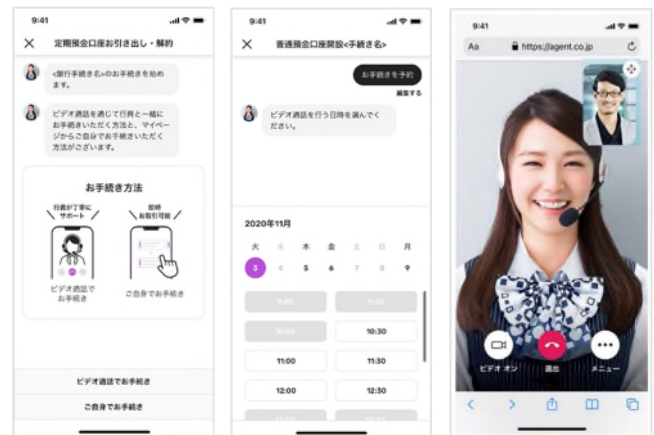
「AGENT」は、“窓口と同じ体験ができる”アプリです。多くの銀行アプリと同様、自身の操作だけで各種取引を完結させることもできますが、ビデオ通話で行員と会話しながら取引を進めることもできます。

ビデオ通話の手続きでは、画面上に手続き内容が表示され、お客さまとの対話をもとに、行員が必要事項を代行入力していきます。最後に、入力された情報が間違いないか、お客さまが確認してボタンを押せば、手続きは完了です。そのため、障がいのある方をはじめ、来店が難しい方やスマートフォンに不慣れな方でも、行員とやり取りしながら安心して手続きをすることができます。

伊予銀行は、デジタル庁が作成した「ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック」やお客さまの要望などを参考に、すべての方にとって優しいデザインを追求しています。テキストと背景画面のコントラストを明確にして読みやすく

する、画面を移動したり手続きを進めるためのボタンは常に画面内の同じ位置に表示するなど、操作に困らないような工夫が随所に施されています。これは、アプリの機能追加のたびに、関係部署の行員約50名が、デザインや操作性に問題がないか利用者目線に立って細かくチェックし、改善を重ねてきたものです。

伊予銀行は、「AGENT」を誰もが利用しやすい「店舗に並ぶ新たなチャネル」として、引き続き、機能拡充や操作性の向上等に取り組んでいきたいとしています。



▲ 「AGENT」の各画面。文字の大きさやボタンの位置などに配慮し、「見やすい」「操作しやすい」アプリになるよう、都度改良を重ねている。伊予銀行提供。

### 【障がいのある方が安心して生き活きと働ける環境を】

伊予銀行は、2018年4月に、子会社「㈱いよぎんChallenge&Smile」を設立しました。同社は、2018年6月に中四国の金融機関で初めて「障害者雇用促進法」の特例子会社の認定を受けました。

同社では、知的障がいのある方を中心に、社員それぞれの特性を活かしたクオリティーの高い「ものづくり」を実現し、社員の笑顔が絶えない、明るくやりがいと誇りのある職場づくりに取り組んでいます。現在、23名の障がいのある方が勤務し、愛媛県産のヒノキを材料とした同行オリジナルマスコットのグッズ、今治タオルの残糸を活用したコースター、缶バッジ等を製作しています。

製品は1つ1つ丁寧な手作業で作られ、その品質の高さから、地元の観光列車「伊予灘ものがたり」の社内販売に、同社が製作したコースターが採用されるなど、県内各所での取り扱いが増えています。

また、障がいのある方が安心・安全に働けるよう、誰でも開閉しやすい引き戸のドア、体調が優れない時にすぐに休憩できるよう各作業場に設置されたソファなど、職場環境に工夫を凝らしています。

同社は、社員の方々の健康管理に気を配りながら、1人1人の特性やスキルに応じた仕事に取り組んでもらうことで、素敵な製品を作っていきたいとしています。



▲ 木製のマスコットグッズの製作現場。伊予銀行提供。



▲ 観光列車で採用されている桜のコースター。



▲ 今治タオルの残糸を利用したコースター、缶バッジ、水引細工のストラップ。



▲ 愛媛県産の木材で作られたSDGsバッジ。

## 障がいに応じた適切なサポート ～西日本シティ銀行の取り組み～

地方銀行は、店舗設備やATMをはじめとするハード面の対応だけでなく、障がいのある方に適切に対応できるよう、行員向けの研修や勉強会など、ソフト面の対応にも取り組んでいます。

福岡県に本店を置く**西日本シティ銀行**は、「すべてのお客さまにやさしい銀行づくり」を目指し、㈱ミライロと連携

して「ユニバーサルマナーハンドブック」を作成し、全職員に配布しています（2017年4月に初版を配布）。

ハンドブックにおいては、視覚・聴覚・肢体不自由など、障がいの内容に応じて、対応する際の留意点等がまとめられているほか、障がいのある方が来店している時に地震等の災害が発生した場合も想定し、避難時の手助けや応急手



当の際に気を付けるポイントも記載されています。職員がイメージしやすいよう、たくさんのイラストを掲載しているほか、代筆に係る行内規定の説明を加えるなどの工夫もしています。

また、同行は、各支店において、ハンドブックを用いた窓口職員向けの勉強会を継続的に実施しています。職員からは、「勉強会を通じて自身の対応を振り返ることができた」、「今後、お客さまへの対応力をさらに向上させたい」といった声もあるとのこと。

同行は、合理的配慮<sup>1</sup>の必要性についてさらに理解を深めるべく、ハンドブックの改訂を予定しています。また、ミライロが提供するサーベイ<sup>2</sup>を活用し、障がいのある方への対応に係る課題を洗い出したうえで、今後、さらに対応を向上させ、「すべてのお客さまにやさしい銀行づくり」に取り組んでいくとしています。

ハンドブックの目次および表紙。西日本シティ銀行提供。▶

目次	
<b>第1章：ユニバーサルマナーとは</b>	<b>第6章：様々なお客さまへのマナー</b>
1 ユニバーサルマナーが求められる理由 ..... 2	1 妊婦・お子様連れのお客さま ..... 26
2 なぜユニバーサルマナーを学ぶのか ..... 2	2 知的障がいのお客さま ..... 27
3 ユニバーサルマナーの基本姿勢 ..... 3	3 精神障がいのお客さま ..... 28
4 障がいとは ..... 4	4 内部障がいのお客さま ..... 29
<b>第2章：視覚障がいのお客さまへのマナー</b>	<b>第7章：災害が発生したときのために</b>
1 視覚障がいとは ..... 5	1 災害時に起こりうる問題点 ..... 30
2 視覚障がいのお客さまが困ること ..... 6	2 視覚障がい者のための災害対策 ..... 31
3 視覚障がいのお客さまへの配慮 ..... 7	3 聴覚障がい者のための災害対策 ..... 31
コラム：代筆代読規程 ..... 9	4 肢体不自由者のための災害対策 ..... 32
<b>第3章：聴覚障がいのお客さまへのマナー</b>	5 知的障がい者のための災害対策 ..... 34
1 聴覚障がいとは ..... 10	<b>コラム</b>
2 聴覚障がいのお客さまが困ること ..... 11	様々なマーク ..... 35
3 聴覚障がいのお客さまへの配慮 ..... 12	LGBT ..... 36
コラム：接客対応で使える簡単な手話 ..... 14	
<b>第4章：肢体不自由のお客さまへのマナー</b>	
1 肢体不自由とは ..... 15	
2 車椅子を使用されているお客さまが困ること ..... 15	
3 車椅子を使用されているお客さまへの配慮 ..... 16	
<b>第5章：高齢のお客さまへのマナー</b>	
1 高齢者とは ..... 18	
2 感覚面での配慮 ..... 19	
3 身体面での配慮 ..... 21	
4 杖を使用されているお客さまへの配慮 ..... 22	
5 認知症とは ..... 24	
6 認知症のお客さまへの配慮 ..... 25	



## おわりに

2024年4月には「改正障害者差別解消法」が施行され、民間事業者による障がいのある方への「合理的配慮の提供」が義務付けられます。

このように政府において、障がいのある方も生活しやすい環境整備に向けた取り組みが進められる中、地方銀行においては、これまでも障がいの有無にかかわらず誰もが利用しやすい金融サービスの実現に向けて取り組んできました。

今回ご紹介した取り組み以外にも、多くの地方銀行が、例えば、自筆するのが困難なお客さまのための行員による代筆、車いすを利用する方向けの専用駐車スペースの設置、各種研修や資格取得を通じた行員の対応力向上に取り組んでいます。

地方銀行各行は、誰もが利用しやすい銀行を目指して、引き続き障がいのある方に配慮した取り組みを推進していきます。

<sup>1</sup> 障がいのある方から、社会における障壁を取り除いてほしいと申し出があった場合、民間事業者の負担が重すぎない範囲で対応を行うもの。例えば、車いすのまま着席したいとの申し出があった場合に、既存の椅子を片付けてスペースを確保することなど。

<sup>2</sup> 障がいのある方への対応状況を可視化し、合理的配慮の提供に向けた取り組みをサポートするもの。

# 国内外で活躍！地方銀行のスポーツチーム

企画調査部 豊島 愛理

- 地方銀行の中には、全国屈指の強豪スポーツチームを運営したり、有力選手を行員として採用すること等を通じ、地域のスポーツ振興に取り組んでいる銀行があります。
- こうした取り組みは、地域に明るい話題を提供するほか、行員のモチベーション向上につながっています。
- 今回は、そうしたスポーツチームの活動状況や、仕事と競技を両立している選手の日常等について紹介します。

## はじめに

侍ジャパン（野球日本代表）がWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）優勝！男子バスケットボール日本代表・男子バレーボール日本代表がワールドカップでパリ五輪の出場権獲得！ラグビー日本代表がワールドカップで強豪相手に大健闘！2023年はスポーツで手に汗を握りながら、日本中が熱狂しました。スポーツには、経済・社会を活性化する効果に加えて、人々の心を元気にする効果もあると言えるでしょう。

地方銀行の中には、地域をスポーツで盛り上げようと、ス

ポーツチームを設置して活動している銀行があります。全国屈指の強豪として日本代表選手を何人も送り出しているスポーツチームを保有している銀行があるほか、地元出身の有望選手を行員として採用し、2024年のパリ五輪出場に向けた挑戦を支援している銀行もあります。

今回のレポートでは、銀行業務と競技を両立させながら、全国で活躍する地方銀行のスポーツチームや選手を紹介します。

## 北國銀行×女子ハンドボール

### （無敵の常勝軍団）

「絶対王者」。それが石川県に本店を置く**北國銀行**ハンドボール部Honey Beeです。地元ハンドボールの強豪・小松市立女子高校（現小松市立高校）の出身選手が同行に多数在籍していたため、こうした地元選手に活躍の場を提供することを目的に、1975年にハンドボール部は創部されました。

これまで、日本リーグ9年連続10回優勝、全日本社会人選手権8大会連続9回優勝、日本選手権4年連続7回優勝、国体9大会連続14回優勝。直近2年間は負けなしと、まさに無双。また、本年9～10月に中国・杭州で開催されたアジア大会では、日本代表「おりひめジャパン」に選手7名を送り出し、日本の初優勝に大きく貢献しました。今後、おりひめジャパンは、パリ五輪出場をかけて、世界選手権や世界最終予選に挑みます。



▲ 試合の様子。北國銀行提供。





1年半前に現役を退き、現在は総合企画部でハンドボール部の広報を務める河田 知美さんは、強さの秘訣について、「常に厳しさを持ち、当たり前のことを徹底し、一戦必勝でがんばっているだけ」と話します。練習のときから、大きな掛け声で、攻守が激しくぶつかり合い、速いパスワークからジャンピングシュートを決める姿は迫力満点。いつも全力で走る・跳ぶ・投げるといった基本練習を繰り返しています。

また、「銀行がハンドボールに集中できる素晴らしい環境を用意してくれる等、全面的にサポートしてくれるのも大きい」と話します。ハンドボール部の練習拠点は、金沢駅より北陸本線で3駅の松任駅から、車で約10分の「北國銀行スポーツセンター」。のどかな田園風景が広がる中、体



▲ 練習拠点である北國銀行スポーツセンター。

育館2棟とグラウンドがあり、ハンドボール部の寮も併設されています。

### （地元の声援を力に）

部員は現在19名で、全員が20代と若いチームです。仕事は選手の希望や現役引退後のキャリアを考えて配属されており、営業店で窓口業務を行う選手や、本部のシステム部でエンジニアとして働く選手がいます。平日は8時40分から15時まで勤務し、16時30分から18時30分頃まで毎日練習しています（休日は、土曜日の午前中のみ練習（試合日を除く））。

ハンドボール部は、同行にとって大きな誇りであり、ホームゲームには多くの行員が応援に駆け付ける等、銀行の一

体感を醸成する原動力になっています。また、河田さんは、「全国屈指の強豪であるがゆえに、地元の期待も高く、地元紙の一面を飾ることも珍しくない。銀行のPRにもなっている」と話します。

選手は、ハンドボール教室の開催や地域のイベントへの参加等、地域の人々との交流も積極的です。ホームゲームには地元ファンが応援に大勢駆け付け、試合後は選手のサインを求める行列もできます。

### （前人未踏の領域へ）

同行の親会社である北國フィナンシャルホールディングスは、小松市に1万人が収容可能なアリーナの建設を検討しており、スポーツ・エンターテインメントを中心とした地域の賑わい創出の拠点とする計画です。その象徴として、ここをハンドボール部の本拠地とする構想であり、銀行や地元の期待がますます高まっています。

チーム名「Honey Bee」の由来は、「働き蜂のように小さいのによく動く」。伝統の「堅守速攻」に磨きをかけ、「誰も成し遂げていない日本リーグ10連覇を必ず達成する」と、河田さんは力強く宣言します。



▲ 選手の集合写真。

## 南都銀行×女子ホッケー

### (栄光の軌跡)

奈良市の中心部から近鉄奈良線で3駅目の「菖蒲池駅」。駅から小学校と幼稚園の間を約7分歩くと、「南都銀行健康保険組合 あやめ池保養所」の人工芝のグラウンドが見えてきます。ここが奈良県に本店を置く**南都銀行**のホッケー部SHOOTING STARSの練習グラウンドです。

ホッケー部は、1982年、地元で2年後に開催される「わかかさ国体」を契機に、創部されました（同国体では、同行所属選手が5名選抜された奈良県代表が見事初優勝）。

そこからのホッケー部の活躍は目覚ましいものがあります。全日本社会人選手権では4回、全日本女子選手権でも1回優勝しています。また、奈良県代表として出場した国体では、これまでに13回優勝しています（同行単独チームとして出場した2017年、2018年には2連覇を達成）。さらに、同行所属選手が日本代表「さくらジャパン」に選ばれ、五輪にも出場しています。今後、さくらジャパンは、パリ五輪出場をかけて、世界最終予選に挑みます。

### (ホッケーを知ってもらう)

ホッケーのボールは硬式野球ボールよりも硬く、シュートは150～200km/hにも達します。ホッケーの魅力について、主将兼コーチの早戸和希選手は「スピードと球際のせめぎ合い、1対1の駆け引き、たくさん点数が入るスポーツではないので1点の重み」と話します。

部員は18名で、寮生活のかたわら、全員が本部勤務しており、審査部、人事総務部、市場運用部、事務サポート部等、各部署に1～2名程度分散して配属されています。

平日の練習は週2日。練習のある火・金曜日は8時30分から12時まで勤務した後、14時から17時30分頃まで白球を追いかけています（練習のない月・水・木曜日は8時30分から17時10分の定時勤務）。休日は、自行専用バスで広



▲ 練習の様子。



▲ 選手の集合写真。南都銀行提供。



◀ 試合の様子。南都銀行提供。

島県や関東地方等に遠征して、公式戦や練習試合を行うことが多く、本年の9月には韓国遠征を行いました。

周りの行員は、ホッケー部の活動に大変理解を示しています。7月に大阪で行われた大会には、猛暑の中、450名以上の行員が応援に駆け付け、見事に勝利を届けることができました。

ホッケー部は社会貢献活動にも熱心です。地元の小学生等を対象としたホッケー教室の開催や、お揃いの練習着を着用しての街の清掃活動等を行っています。こうした活動を通じて、ホッケーの魅力やホッケー部の知名度を上げる取り組みに力を入れています。



▲ 得点して喜ぶ選手と同行応援団。南都銀行提供。



## (栄冠を目指して)

今シーズンは、世代交代の過渡期にあり、若い選手が多く、苦戦を強いられました。ホッケー部チームマネージャーの樋口修さんは、「1対1の攻撃と守備に課題があった」と言います。

ホッケーのグラウンドは、本来、サッカーのグラウンドを

一回り小さくした広さですが、同行のグラウンドは正規の広さの4分の1しかありません。このため、狭いグラウンドでも練習できる1対1の強化を徹底し、「狙うは18年ぶりの全日本女子選手権優勝」と、早戸選手は声高らかに意気込みます。

## 富山銀行×男子陸上競技

### (憧れの選手はあの人類最速の男)

**富山銀行**に、スタートから約10秒にすべてをかける選手がいます。男子100m走の有力選手である入行2年目の行員で、陸上競技部唯一の部員である福島 聖選手です。

もともと走るのが速かった福島選手が陸上競技を始めたのは、小学校4年生のとき。2009年の世界陸上ベルリン大会で、ジャマイカのウサイン・ボルト選手が、100m走9秒58の世界新記録を出した光景にくぎ付けとなりました。小

学5年生のときに100m走で全国2位、中学から200m走に変更し、高校で全国優勝しました。

その後、地元の富山大学に入学しました。ケガに悩まされた時期もありましたが、200m走を専門としたことで、中盤にトップスピードを出す脚力が付いていました。この武器を生かして世界を目指すため、100m走に再転向した結果、4年生のときに10秒31の自己ベストを記録しました。

### (地元こだわる)

福島選手は、大学まで地元で陸上競技を続けてきましたが、社会人になっても地元で競技を続けることは難しいのではないかと考えていました。そんな矢先、富山銀行が、デュアルキャリア（競技活動と仕事の両立）の充実を支援する取り組みとして、2022年に「アスリート採用」を新設し、福島選手はその第1号として採用されました。福島選手は当時を振り返り、「『嬉しい』の一言しかなかった。銀行が全面的にサポートしてくれるので、結果を出して銀行に恩返しするしかないと思った」と言います。

結果はすぐに表れました。2022年5月の富山県陸上競技選手権大会で、10秒17の自己ベストをたたき出し、同月開催の「セイコーゴールデングランプリ陸上2022東京」では、世界の有力選手が集まる中、決勝進出を果たしました。

福島選手は、銀行では営業統括部に配属され、各営業店の預金・貸出の残高データ等の分析を担当しています。毎日、計数をチェックする中で、「上司や先輩の助言等を受けながら、計数が変動する要因を分析するのがおもしろい」と言います。

平日は毎日8時40分から15時まで勤務し、月・水・木曜日は、自宅近くの陸上競技場で17時から19時まで、1人で練習しています（火・金曜日は身体のケアに専念）。休日は、母校の大学生と一緒に練習しています。



▲ 1着でゴールする福島選手。富山銀行提供。

## （銀行のユニフォーム姿で目指すは夢の9秒台）

4～10月のシーズン中は年間12～13試合あり、県内で開催される大会には行員も応援に駆け付けます。福島選手は、周りの行員から「『次の大会もがんばってね』と声をかけられるのが、やる気につながっている」と話します。また、総合企画部 広報・CSRグループの中嶋尚大さんは、「富山県内では負けなしで応援し甲斐がある。全国大会では富山銀行の名前の入ったユニフォーム姿の福島選手がテレビ画面に映り、誇らしく思う。銀行の知名度も上がるので、とてもありがたい」と話します。



福島選手は、アスリート採用者として、陸上教室の開催やイベントへの出演等、地域との交流も積極的に行っています。6月には母校の小学校の運動会にゲスト参加し、一流選手の走りを披露するとともに、小学生が一生懸命走る姿にさらなる活力を得ました。

今後の目標は、日本で4人しかいない9秒台を出し、2024年のパリ五輪と2025年に東京で開催される世界陸上に出場することです。福島選手は、「自分の武器である中盤の伸びを突き詰めればチャンスはある」と話します。



▲ 左：テレビ画面に映る福島選手、右：福島選手の応援に駆け付けた行員たち（前列中央が福島選手、前列右から2人目が中嶋さん）。富山銀行提供。

## 関西みらい銀行×女子漕艇

### （創部第一期生）

「水面との距離が近く、水の上を滑る感覚が新鮮」と、漕艇（ボート）の魅力を語るのは、大阪府に本店を置く**関西みらい銀行**の新入行員で、女子漕艇部の唯一の部員である中尾 咲月選手です。

漕艇は、波や風にも影響されながら、1,000mまたは2,000m先のゴールを目指す過酷な競技です。中尾選手は、先輩に誘われて高校から漕艇を始めました。すぐに頭角を現し、高校2年生の全国大会で2位に、その後進学した強豪の早稲田大学では漕艇部女子主将も務め、全国大会で2位の成績を上げました。ただ、学生時代に優勝できなかったという心残りがあり、社会人になっても漕艇を続けたいとの思いがありました。

その頃、2025年に滋賀県で開催される国体に向け、同行は、前身のびわこ銀行に女子漕艇部があった経緯もあり、2023年4月に漕艇部を新たに設立しました。中尾選手は、「何もなかったところで競技をするのはリスクが大きいけど、新しくチームを作る経験は他ではできない」ことに魅力を感じ、同行に入行しました。

4月に入行し、1か月間は銀行業務の新入行員研修があり

ました。それにもかかわらず、5月に琵琶湖で開催された全国大会「第74回朝日レガッタ」で2位、8月に開催された「中日旗争奪びわ湖レガッタ」では優勝を果たしました。



◀ 第74回朝日レガッタの様子。関西みらい銀行提供。



## (朝練も日課)

中尾選手は、滋賀県大津市にある商住型店舗の瀬田駅前支店に配属されており、毎日口ビーに立ち、高齢者を中心に来店するお客さまの用件を聞いて窓口案内しています。NISA等の推進も行っており、「お客さまに積極的に声をかけ、反応がよいと楽しく感じる」と話します。

5～10月のシーズン中、火曜日から金曜日は、5時30分から7時過ぎまで琵琶湖で朝練をしてから出社します。午後は15時に仕事を切り上げ、16時から18時頃まで練習しています。休日にも練習や大会に出場しています。なお、月曜日は練習がなく、8時40分から17時25分の定時まで勤務しています。

中尾選手は、営業店の仲間が快く練習に送り出してくれる等、応援してもらっていることを感じています。先述の朝日レガッタでも、約100人の行員やその家族が応援に駆け付

けました。また、中尾選手の活躍がメディアに取りあげられた際には、お客さまからも激励の声をかけてもらっています。

地域に対しては、子どもたちを対象とした体験教室を開催し、ボートの楽しさを伝えています。また、近隣店舗と連携して、営業店の行員総出で琵琶湖等の清掃活動を行っており、行員同士の結び付きも強めています。



▲ 中尾選手の応援に駆け付けた行員たち。関西みらい銀行提供。

## (琵琶湖で優勝するために)

同行は、2025年の滋賀国体優勝に向けて漕艇部の活動に力を入れており、部員も8名程度に増やしたいとしています。中尾選手は、現在、1人乗りのシングルスカルに出場していますが、本来は複数人乗りの種目が得意なため、「部員が増えて、ダブルスカルやクオドルプルなどの種目に出場できれば、もっとよい成績が出せる」と話します。また、漕艇部監督の山崎 智さんは「将来的に、全日本級のレースで上位に食い込む選手を育成していくことが目標」と抱負を語ります。

ボートは後ろ向きでオールを漕ぐため、先頭に立ったときに他の選手の姿が前方に見えるのが、他のレース競技と違うところ。中尾選手はそんな光景を見るために、日夜練習に励んでいます。



▲ 第74回朝日レガッタの受賞式（左は山崎さん、右は中尾選手）。関西みらい銀行提供。

## おわりに

本稿では紹介しきれませんでした。バドミントンやバレーボール、ソフトボール等、日本のトップリーグに所属したり、全国大会で活躍している地方銀行のスポーツチームは、まだまだたくさんあります。

例えば、七十七銀行硬式野球部は、今年の都市対抗野球大会に4年ぶり14回目の出場を果たしました。東京ドームで開催された試合には、地元の取引先や他の会員銀行のほか、当協会職員も応援に駆け付け、一球一打に熱い声援を送りました。

また、10月に開催された「プリンセス駅伝in宗像・福津

全日本実業団対抗女子駅伝競走大会予選会」には、十八親和銀行、鹿児島銀行、肥後銀行の3行が出場しました。3行とも惜しくも全日本大会への出場権は獲得できませんでしたが、肥後銀行の酒井美玖選手は区間賞を獲得する活躍を見せました。

2024年は、パリ五輪が開催されます。パリ五輪には、地方銀行の所属選手が日の丸を背負ってたくさん出場するかもしれません。ぜひみなさん、日本選手を応援しましょう。「がんばれ、NIPPON!!」。

## 「地方創生事例集」に記事を追加しました

—— 創造的復興に向けてクリーンエネルギーにチャレンジ（福島県浪江町×東邦銀行）

福島県の「浜通り」と呼ばれる県東部の沿岸に位置する浪江町。2011年の東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を受けたかつての被災地は、クリーンな新エネルギー「水素」の地産地消による街づくりと先端産業の拠点として、世界的に注目を集めています。福島県福島市に本店を置く東邦銀行では、次世代経営者に対して、浪江町における新たな事業展開を考えるきっかけの場を提供することを目的に視察研修会を企画・実施しました。

詳細は、当協会ホームページ掲載の「地方創生事例集」をぜひご覧ください（[http://www.chiginkyo.or.jp/assets/sonota05\\_0126.pdf](http://www.chiginkyo.or.jp/assets/sonota05_0126.pdf)）。



ここからアクセス！



▲ 浪江町の「なみえ水素タウン構想」浪江町ウェブサイト（<https://www.town.namie.fukushima.jp/>）より。

## 「ポートフォリオ運営講座」を京都ラボで開催しました

当協会は、10月16日（月）～10月18日（水）の3日間、「ポートフォリオ運営講座～誰でも使えるExcel管理実践～」を実施しました。本講座は、内外の政治・金融経済の情勢を踏まえた投資戦略について、適切なリスク・コントロール技術に基づき研究することを目的としたものです。

今回は、サイエンス&テクノロジーに基づき、資産運用理論・モデルの研究開発・実践や、運用モデル開発者の育成を行う一般社団法人京都ラボの方を中心に講師をお招きし、同社の施設で開催しました。京都の明道寺を改装した建物で、深い歴史とモダンなデザインが同居しています。

研修では、初日、京都ラボのエグゼクティブ・アドバイザー 平野 吉伸氏より、地域金融機関の資金運用環境と方向性について講演をいただき、その後、中銀アセットマネジメント株式会社のファンドマネージャーの越智 孝之 氏、杉山 知彌 氏から国内株式・国内リートの運用について解説いただきました。2日目は、京都ラボの主任研究員 吉田 朋之氏より、金融市場の価格形成の仕組み・運用戦略について、Excelを使用したポートフォリオ管理ができるよう、実際のシート構築やVBA（マクロ）の演習を1日かけて実施。最終日は、現在の金融情勢について、東京大学大学院教授の渡辺 努氏より講演をいただきました。



▲ 吉田講師。



▲ 渡辺教授。

当協会は、今後も、地方銀行の各種経営課題ならびに地方銀行の行員のスキル向上などに資する研修を幅広く実施していきます。



▲ 京都ラボの会場。



▲ 中庭。

## 2023年度の規制改革・行政改革要望を提出しました

当協会は、11月の理事会で、2023年度の規制改革・行政改革要望を取りまとめ、11月15日、内閣府に提出しました。

今年度の主な要望項目は以下のとおりです。

### 【I. 業務範囲規制のさらなる見直しに係る要望】

1. 銀行および銀行の子会社・兄弟会社の業務範囲規制の見直し
2. 不動産仲介業務の解禁
  - ①銀行または銀行の子会社・兄弟会社による不動産仲介業務の解禁
  - ②信託兼営金融機関による不動産仲介業務の解禁
3. 銀行の保有不動産の賃貸の柔軟化
4. 銀行持株会社による保有不動産の賃貸の解禁

### 【II. AML/CFTの高度化・効率化に資する要望】

5. 継続的顧客管理に係る銀行の調査に対する顧客の回答義務化
6. 行政による法人の実質的支配者情報の把握
7. 本人確認手続のデジタル化等のための本人確認書類の見直し
8. 出入国在留管理庁「在留カード等番号失効情報照会」の機能拡充
9. 「疑わしい取引の届出」に関する情報提供の拡充

### 【III. 顧客の利便性向上に係る要望】

10. 銀行の保険窓販に係る弊害防止措置の廃止または緩和
11. 生命保険の募集に係る構成員契約規制の廃止
12. 保険募集先における影響遮断および保険募集制限先の確認に係る口頭説明の許容
13. 銀証間の情報授受規制の撤廃

14. 確定拠出年金運営管理機関による運用商品の推奨を禁止する規制の緩和
15. 税金・公金・公共料金の収納における銀行の記録保存義務の撤廃
16. 「簡素な顧客管理を行うことが許容される取引」である大学等に対する入学金・授業料等の支払いに該当する取引の拡充
17. 出資先企業に対する銀行グループの関与方法の柔軟化
18. 成年後見制度の見直し

### 【IV. デジタル化の推進に係る要望】

19. 個人番号（マイナンバー）の銀行業務・事務における活用
20. 報告・届出内容を各府省庁間や制度間で電子的に共有する仕組みの構築
21. 行政機関等からの口座振替依頼や振込依頼等の電子化
22. 地方公共団体等における小切手振出の廃止
23. 地方公共団体における定額小為替証書の利用の廃止
24. 地方公共団体における公共料金以外の費目（手数料支払い、元金返済等）についての口座引落による支出の許容
25. 各種共済制度の申込受付等のデジタル化
26. 捜査機関からの捜査関係事項照会や警察からの口座凍結要請の電子化

上記に加え、銀行事務の合理化に係る要望（5項目）や、当局届出等の簡素化に係る要望（9項目）も提出しています。要望全文は、当協会のウェブサイト（[https://www.chiginkyo.or.jp/association/opinion\\_infomation/opinion/01243.html](https://www.chiginkyo.or.jp/association/opinion_infomation/opinion/01243.html)）をご覧ください。

## 2024年1月、NISA制度が新しくなります

まもなく新しいNISA制度がスタートします。みなさんは、NISAがどう変わるのかご存じですか？

### 新しいNISA制度のポイント

- ①年間非課税投資枠が360万円に拡大
- ②非課税保有期間が無期限に
- ③売却したら投資枠が翌年から復活
- ④成長投資枠とつみたて投資枠の併用が可能

新制度のスタートを控え、ニュースやイベントなどで新しいNISAが取り上げられる機会が増えています。当協会も、新しいNISAの普及を促進するため、本年10月～来年1月に全国4都市で開催される「新NISA全国セミナー」（主催：投資信託協会）を後援しています。

10月7日に開催された「新NISA全国セミナーin福岡」では、福岡銀行 営業統括部の山内副調査役が登壇し、投資信

託と預金の違い、若い世代の新しいNISAの活用方法、現行のNISAから新しいNISAへの移行時の注意点、リスクを抑えた投資信託の選び方などについてわかりやすく解説しました。



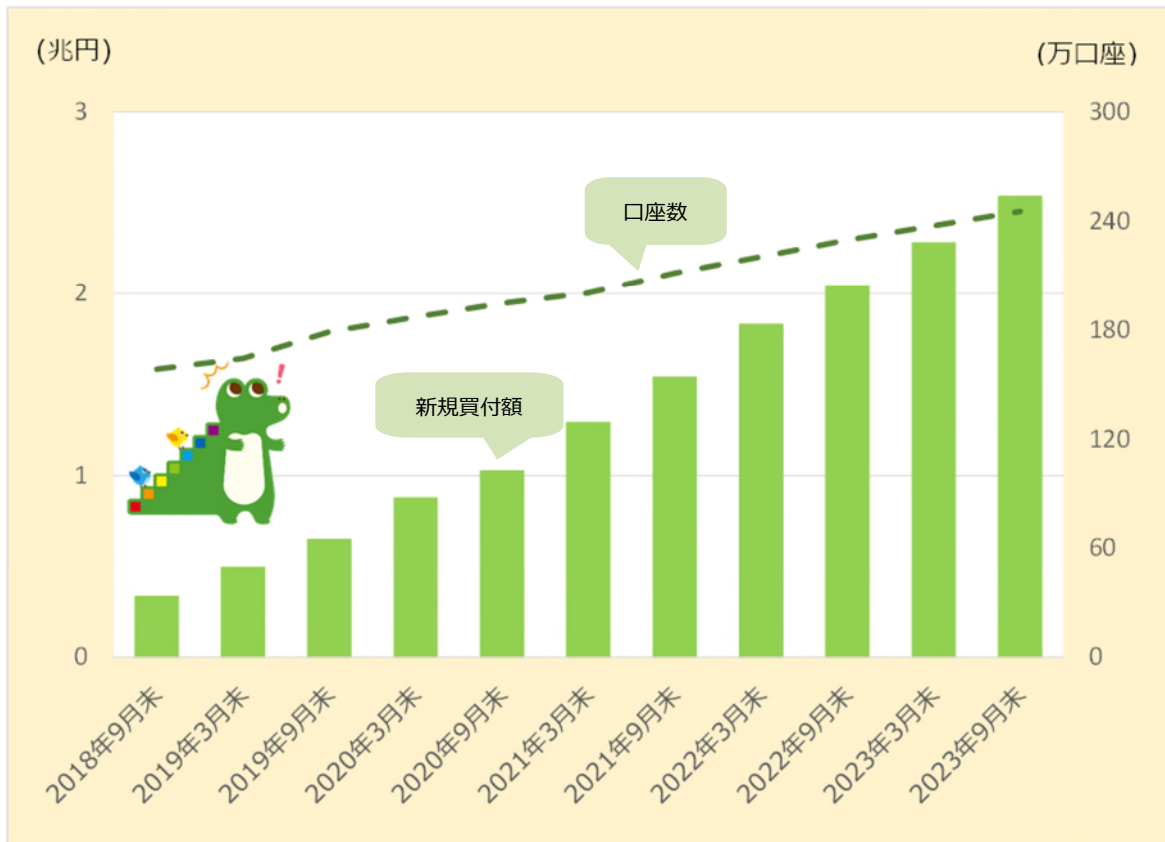
▲ 福岡銀行提供。

みなさんのお近くの地方銀行でも、新しいNISAを活用した資産運用について、お客さまのご相談をお受けしています。NISA制度の使い勝手がさらに良くなるこの機に、ぜひお気軽にお近くの地方銀行までお声がけください。

## 地方銀行のNISA取扱状況

地方銀行における一般NISAとつみたてNISAの取扱状況（合算）の推移を見てみると、口座数、新規買付額とも右肩上がりが増加し、2023年9月末時点で、約247万口座、2.5兆円超となっています。

地方銀行の一般・つみたてNISA口座数・新規買付額



来年1月からは、新しいNISA制度がスタートします。地方銀行は、引き続き、NISAを活用したお客様の資産運用をサポートしてまいります。

地銀協レポート Vol.11 2023年12月13日公表

一般社団法人全国地方銀行協会  
〒101-8509  
東京都千代田区内神田3-1-2  
TEL 03-3252-5170  
<https://www.chiginkyo.or.jp/>

地銀協公式X（旧Twitter）でも、  
地銀界や会員銀行の取り組みを  
ご紹介しています。  
ぜひ、フォローしてください！

